

高松市M I C E 振興戦略（仮称）

～おいでM I C E 瀬戸の都・高松～

（原案）

高松市

目次

はじめに		1
第1章 「高松市MICE振興戦略（仮称）」策定の意義		2
1 MICE（マイス）とは		3
2 本市におけるMICEの意義		4
3 MICEの市場動向		6
4 本市のMICEの現状と課題		8
第2章 基本戦略		16
1 本市の目標とするMICE		17
2 本市のMICE目標指標		20
第3章 「高松市MICE振興戦略（仮称）」の重点施策		21
1 受入環境の整備		22
2 誘致強化		31
3 MICE振興のための産官学連携		39
4 MICEの創出		42
第4章 戦略の推進		46
【資料編】		
1 高松市MICE振興戦略（仮称）策定経過		47
2 高松市MICE振興戦略策定懇談会		48
3 MICE関係施設一覧		49
4 MICE用語集		51

はじめに

市長挨拶と写真

第1章 「高松市MICE振興戦略（仮称）」策定の意義

本市は、2016年にまちづくりや市政運営の基本となる「第6次高松市総合計画」を策定しました。「第6次高松市総合計画」における“目指すべき都市像”の実現に向けたまちづくりの目標の一つである「産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち」を実現する上で、「訪れたい観光・MICEの振興」を掲げ、本市の特性をいかしてMICEの誘致に積極的に取り組むことが重要であるものとしています。

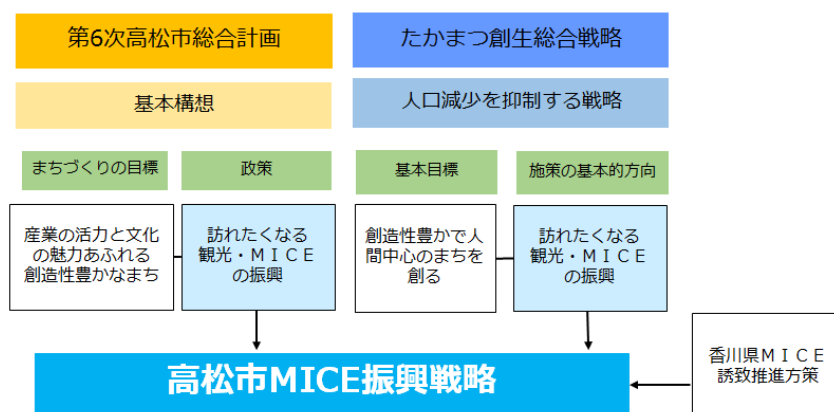
また、本市の人口減少を抑制する戦略として策定した「たかまつ創生総合戦略」においても、MICEの誘致促進の必要性を掲げています。

国においては、MICEの積極的な誘致・開催に向け、グローバルMICE都市及びグローバルMICE強化都市を選定するなど、MICE誘致力の向上に取り組んでいます。MICE振興においては、このような国の政策を見据え、広域的な視点から取り組んでいくことも必要となります。香川県を始め、グローバルMICE／強化都市や瀬戸・高松広域連携中枢都市圏を形成する市町等との連携により、広域的な魅力を創出するとともに、本市の都市機能や魅力を補完し、いかすことができます。

また、MICE開催都市の都市機能は主催者が開催地を決定する際の重要な要素です。そのため、サンポート地区の高松市文化芸術ホール（愛称：サンポートホール高松）やかがわ国際会議場、周辺の宿泊施設など既存施設や、同地区に建設が決定した新県立体育館の活用などの施設間連携、国内・国際定期路線の充実、高速鉄道ネットワークの整備検討などの交通アクセスの向上といった受入環境の整備に取り組む必要があります。本市の特徴である瀬戸内海を望むシーフロントの魅力をいかしたMICE振興を推進することで、環瀬戸内海圏の中核都市としての拠点性を発揮することができます。

このように、本市のまちづくりにMICEを積極的に活用するため、「高松市MICE振興戦略（仮称）」を策定します。なお、本戦略は2017年度から2023年度までの7年間の本市におけるMICE振興の方向性を示すものとします。

高松市MICE振興戦略の位置付け



1 MICE (マイス) とは

MICEとは、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ・ツアー) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格が異なります。そのため、MICEを観光振興という視点で捉えるのではなく、「人が集まる」という直接的な効果はもちろん、交流から生まれる付加価値や経済効果、安定した誘客等の効果に対する認識を高める必要があります。

MICEとは

(M) ミーティング、(I) インセンティブ、(C) コンベンション、(E) エキシビション/イベントの総称

Meeting

企業や団体のミーティング等。
例) 海外投資家向けの金融セミナー、
グループ企業の役員会議 等

Convention

国際団体、学会、協会が主催する総会、
学術会議等。
例) 世界水フォーラム、各種学会 等

M I

C E

Incentive

企業が従業員やその代理店等の表彰や
研修等の目的で実施。起業報奨、研修
旅行とも呼ばれる。

Exhibition/Event

文化・スポーツイベント、展示会・見
本市。
例) 東京国際映画祭、世界陸上、
東京モーターショー 等

出典：観光庁MICEの意義より作成

2 本市におけるM I C Eの意義

M I C Eを誘致・開催することにより、地域への経済波及効果、交流人口や観光客の増加、ビジネス・イノベーションの機会の創造や都市のブランドイメージの向上など、まちづくりの活動全体に大きな効果があります。

(1) 地域への経済波及効果

M I C E開催を通じた主催者、参加者等の消費支出や、それに関連した事業の実施、周辺イベントの開催などの事業支出は、M I C E開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出します。M I C Eは会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いため、一般的な観光客以上に周辺地域への経済波及効果を生み出すことが期待できます。

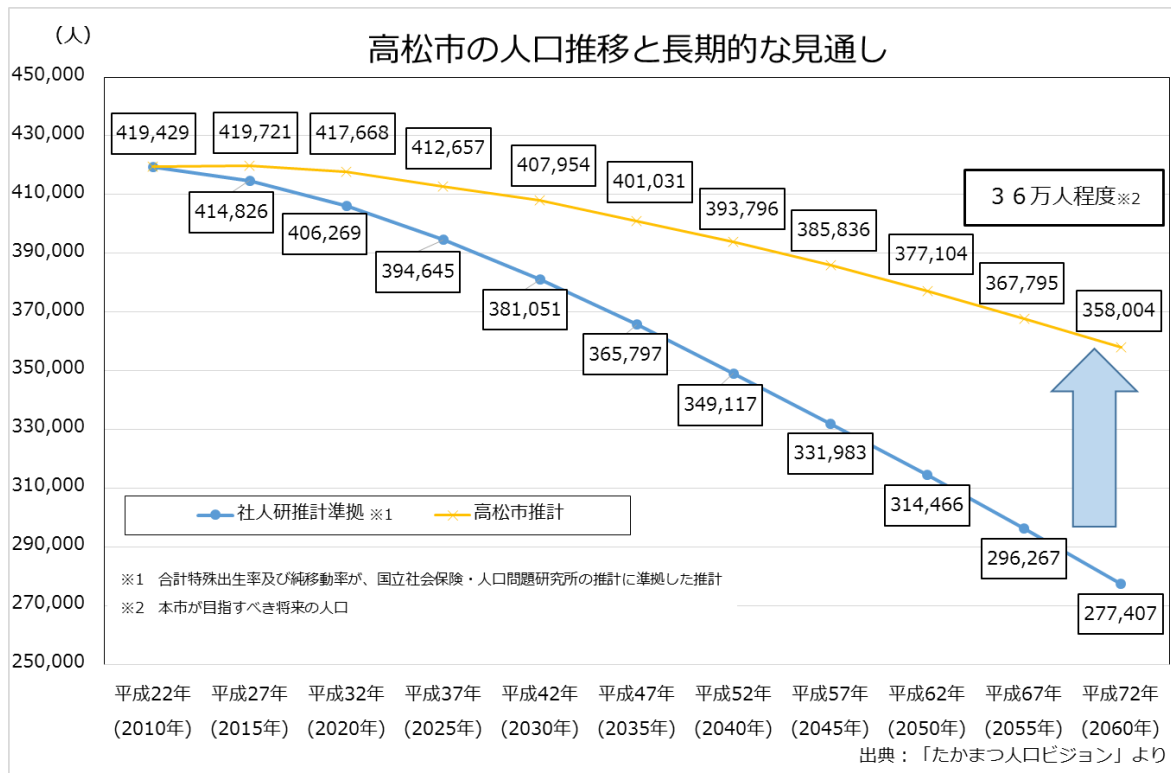
比較項目	一般観光	M I C E
誘致対象	不特定	特定
意思決定者	個人	機関・団体
開催地決定要因	観光資源、経済性	会場、立地、宿泊施設、キーパーソン、ブランド等
参加者の行動形態	主に個人行動	主に団体行動
来訪 PR 誘致主体	行政、観光協会、観光業界等	主催事務局、PCO、コンベンション・ビューロー等
都市滞在期間	1都市 1～2泊	会議開催中は1都市滞在
旅程	主要観光地を周遊	会議開催地からプレ・ポストツアーの実施
支出傾向	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等 +主催者による会議場・宴会場・通訳等々の利用あり
景気の影響	景気の影響を受けやすい	数年前に開催が決定されるため、開催自体は景気等に左右されにくい

出典：「M I C Eの誘致・開催の促進」（2016年2月、観光庁）を一部修正

(2) 交流人口や観光客の増加

M I C Eの開催は、国内外のビジネス客（M I C E開催により本市に来訪する主催者や参加者）の誘致につながり、新たな観光資源の開発や観光サービスの提供を促します。同時に、本市を訪れたビジネス客に、本市の観光や文化芸術、瀬戸内海の多島美などの魅力を発信し、観光・M I C E都市としてのブランドイメージを向上させることにより、ビジネス客が観光客としてリピーターになるなどの好循環が生まれ、さらなる交流人口や観光客の増加が期待できます。

本市の人口は2017年●月現在42万人規模を維持しているものの、今後は減少傾向が予想されることから、交流人口を増やすことは重要であり、M I C Eの開催はその機会を得るためにも必要です。



(3) ビジネス・イノベーションの機会の創造

M I C E開催を通じて、国内外から数多くの企業や学会などの関係者が本市を訪れることで、市民及び市内の企業関係者と海外の関係者とのネットワークを構築する機会が増加します。世界の最新情報や先端技術等に触れることで、新しいアイデアやヒントが得られ、新しいビジネスの創造や地域産業のイノベーションの機会となり、産業の活性化につながります。

(4) 都市のブランドイメージの向上

M I C E開催を通じた国際・国内相互の情報の流通、ネットワークの構築などはビジネスや研究環境の向上、都市のブランドイメージの向上につながります。本市においては、M I C Eを都市競争力やブランド力向上の手段として活用し、関係者や他都市との連携も図りながら、創造都市としての成長に努めます。

また、本市の都市ブランドイメージの向上は、市民の本市に対する誇りや愛着、いわゆるシビックプライドが高まることにもつながります。

3 MICEの市場動向

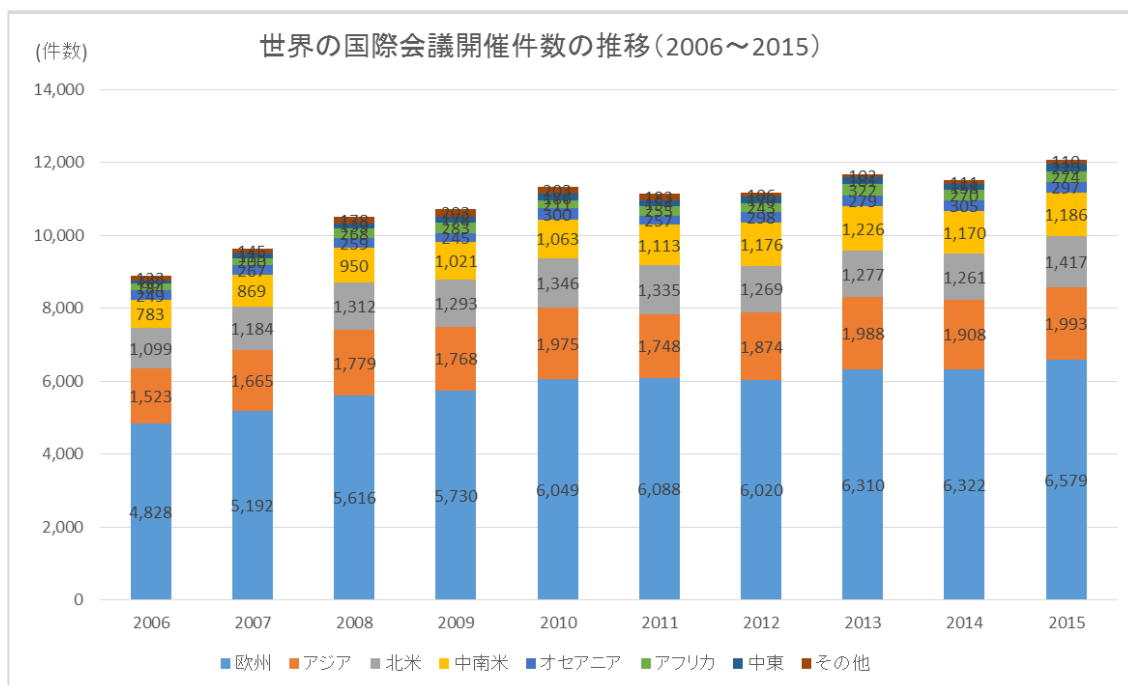
アジアにおけるMICEの動きの活発化により、世界のMICE市場が大きく変わろうとしています。国内においても、観光庁主導によるMICE振興支援の選択と集中が進んでいます。このようなMICEを取り巻く環境の変化を把握した上で、本市のMICE振興を図る必要があります。

(1) 世界のMICEの潮流

国際会議協会（ICCA）の統計によると、2015年に世界で開催された国際会議は12,076件、前年より571件の増加となり過去最高の件数になりました。2006年の8,877件と比較しても増加していることがわかります。また、アジアで開催された国際会議件数も、1,993件と前年に比べ85件増加しています。

シンガポールやソウルなどアジア・オセアニア・中東地域の競合都市では、大型MICE施設の整備や産業力の強化と結びつけた積極的な誘致活動の展開など、MICEを都市戦略や経済成長戦略のツールとして活用し、都市の存在感を高めています。

特に、シンガポールでは産業育成の視点から、また、香港では都市のブランドイメージ強化の視点からMICEを戦略的に活用しています。



出典：ICCA 発表より日本政府観光局（JNTO）作成

(2) 国内MICEの状況

①MICEに関する国の政策

急速な経済成長を背景に、アジアや南米地域でMICE開催件数の伸びが大きくなっているなど、我が国と他国との競争が激しくなってきたことから、観光庁は選択と集中を図るための取組として、2013年にグローバルMICE都市（旧グローバルMICE戦略・強化都市）を7都市（東京、横浜市、愛知県名古屋市、京都市、大阪府大阪市、神戸市、福岡市）選定しました。

また、2015年にグローバルMICE強化都市として、さらに5都市（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）を選定し、MICE誘致力向上のために海外からのコンサルティングの機会を設けたり、誘致活動のための費用を支援したりしています。

さらに、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役として、地域の多様な関係者を巻き込んだ日本版DMOの設立が進んでいます。また、それに合わせてMICEによる地方創生を目指し、各地で産官学市民連携の動きが始まっています。

②国内のMICEの市場動向

国が推進する地方創生の流れの中で、多くの都市では産業振興に結びつく交流人口の拡大及び都市のブランド力向上のためにMICEを活用する動きが活発になっています。

国によるMICE振興の動きとは別に、東京五輪を控え、2020年までに完成を目指す国際会議場を始めとするMICE施設の新設や増床が各地で相次いでいます。そのため、国内においてもMICE誘致の競争は激化しており、戦略の見直しや新規戦略策定が進むなど、都市をあげてのMICE振興が展開されています。

③香川県のMICE推進の状況

香川県はMICEの誘致を一層進めるため、2016年3月「香川県MICE誘致推進方策」を取りまとめました。その中で、官民一体となったMICEの誘致推進組織として、香川県、本市と関係機関が連携した「望ましい取組み体制を検討」することが示されており、2016年11月に香川県MICE誘致推進協議会が設立されました。

また、2016年4月には、本市においてG7香川・高松情報通信大臣会合が開催されました。G7として情報通信大臣会合の開催は21年ぶりのことで、閣僚会合としては四国で初めての開催となりました。

4 本市のMICEの現状と課題

本市のMICEの現状を分析し、主な課題を整理します。

(1) 「高松市MICE振興戦略（仮称）」策定に当たっての背景

①「第6次高松市総合計画」との関係

本戦略は、「第6次高松市総合計画」に掲げられている、本市の目指すべき都市像「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」を実現するために、将来に向けたMICE振興の方向性を定めるものです。

「第6次高松市総合計画」では“目指すべき都市像”の実現に向けたまちづくりの目標の1つとして『産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち』を掲げています。その実現に向けて、「訪れたい観光・MICEの振興」に取り組み、MICEによるビジネス客や観光客の誘致の推進に努めます。MICEの振興により、国際・国内交流の推進や移住・交流を促進することで、「地域を支える産業の振興と経済の活性化」、「国際・国内交流の推進と定住の促進」などの政策とも連携を図ります。

また、まちづくりの目標の1つである『環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち』における各政策とも深く関係するため、これらとも連携した戦略を目指します。

②国際会議観光都市の認定

本市は、「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律（コンベンション法）」に基づき、1994年に国際会議観光都市に認定されました。

これにより、開催・誘致に向けて国の支援が受けられるようになりました。本市においては国際会議等の誘致に関する情報提供や、海外における国際会議観光都市の宣伝など、国際会議観光都市認定による効果を最大限にいかして、MICE振興に取り組んでいます。

(2) 本市のMICEの現状

①現状

本市は、G7香川・高松情報通信大臣会合や第4回日仏自治体交流会議、第11回アジア太平洋盆栽水石高松大会(ASPAC)などを開催できる施設と運営能力を持ち合わせており、国際会議の実績や経験を蓄積しつつあるといえます。

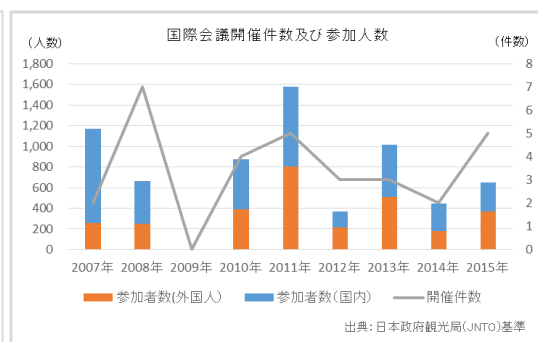
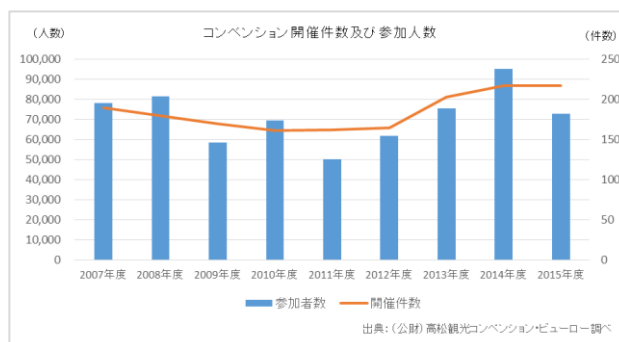
本市の特色ある地域資源であるシーフロントのサンポート周辺の高松市文化芸術ホール、かがわ国際会議場などのコンベンション機能を有する施設や、近隣の宿泊施設を始めとするMICE施設の集積をいかし、施設間の連携を強化することで、世界で増加傾向にある国際会議への対応が可能になります。

本市には、瀬戸内海の島々や景観、史跡高松城跡 玉藻公園、屋島を始めとする豊富な地域資源がある一方で、本市のシンボルである屋島については、観光客の減少傾向など、その多様な魅力をいかしきれていない状況にあります。MICEの振興においては、これら本市の特色ある地域資源をMICEに活用する必要があります。

(公財)高松コンベンション・ビューローにおいては、MICE誘致を促進するための開催支援補助金が制度として設けられています。また、香川県においても香川県コンベンション誘致対策補助金制度など財政支援体制が整備されています。

このように、知名度の高い国際会議の開催実績や特色ある地域資源、開催支援制度を有しながらも、本市のコンベンション数や国際会議開催件数の推移は横ばい傾向にあります。これは本市が高いMICEの潜在力を持ちながら、本市の強みをプロモーションや誘致に十分発揮できていないと考えられます。

開催年月	会議名	参加者数
2016年4月	G7香川・高松情報通信大臣会合	160名
2015年10月	第3回東アジア環境史学会 The Third Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2015)	250名
2015年6月	第16回ソフトウェア工学、人工知能、ネットワークおよび並列/分散コンピューティングに関する国際会議 16th IEEE/ACIS International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distributed Computing (SNPD2015)	105名
2014年12月	第6回荷電粒子の蓄積装置を用いた基礎物理に関する国際会議(TCP2014)	110名
2014年11月	第14回日中韓環境産業円卓会議	30名
2014年10月	第4回日仏自治体交流会議	約160名
2014年7月	第10回アジア・環太平洋視覚会議 The 10th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV 2014)	336名
2013年11月	第51回飛行機シンポジウム/アジア太平洋航空宇宙技術国際シンポジウム2013 (APIS AT 2013)	700名
2012年9月・10月	みなみまぐる保存委員会第7回選守委員会会合(9月)、第19回年次会合(10月)	96名
2011年11月	第11回アジア太平洋盆栽水石高松大会(ASPAC)	37,600名 ※国別登録者数:974名
2011年6月	第9回日ASEAN(東南アジア諸国連合)次官級交通政策会合	44名
2010年12月	第25回日韓観光振興協議会	62名

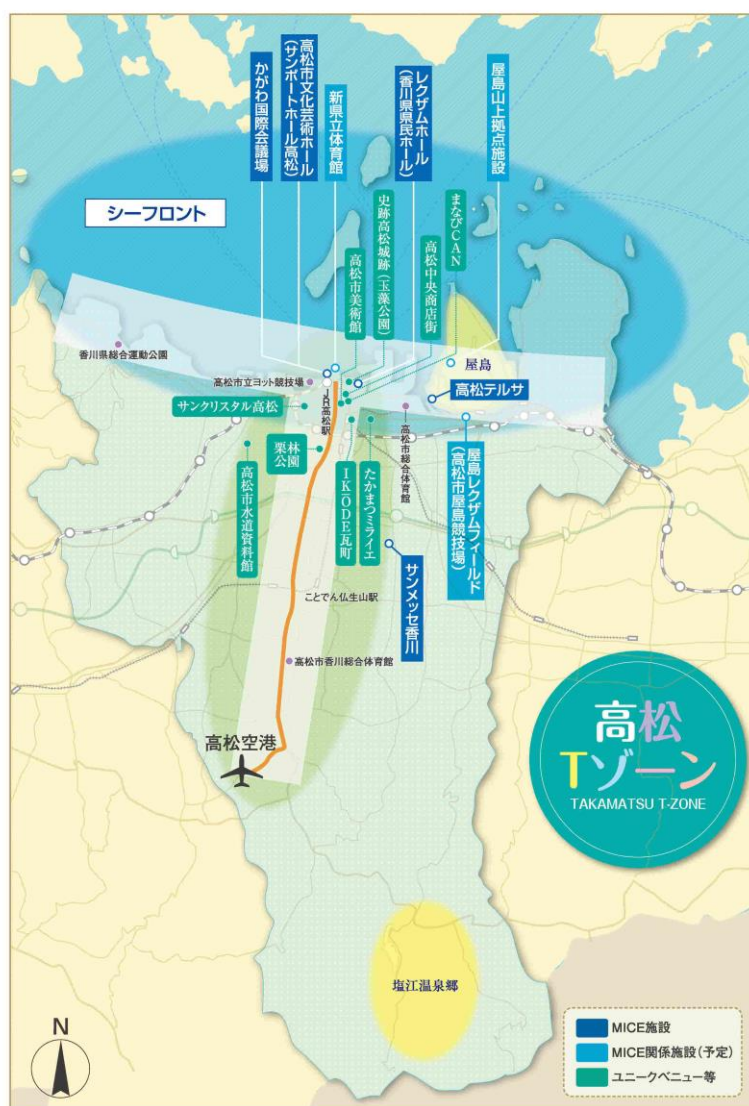


② M I C Eにおける本市のポテンシャル

2017年●月現在、高松空港は台北、上海、ソウル、香港への国際定期路線が就航しています。国際会議等で海外からのM I C E参加者を受け入れるためには、国内・国際定期路線の充実等とともに海外からの訪問客の受入環境の整備も必要となります。

また、本市の強みであるシーフロントにおけるM I C E施設や観光資源をさらに活用するためには、国内外からのM I C E参加者の玄関口となる高松空港からシーフロントのコンベンションエリアへの交通アクセスも重要となります。

五色台から、県内有数のコンベンション施設等が集まるサンポートを経て、屋島、志度湾へと続く東西に広がるシーフロントという希有の資源と、そのサンポートを起点として南に続く、中央通り、栗林公園、高松空港、そして塩江温泉郷をも望む、県内随一の都市機能に着目した「高松Tゾーン」は、本市のM I C E振興においても重要な要素です。



シーフロントの東部に位置する屋島は、メサと呼ばれるテーブル状の台地などが学術上貴重なことから、1934年に天然記念物の指定を受けているほか、古代山城屋嶋城（こだいやましろ やしまのき）、屋島寺、源平合戦古戦場など数多くの貴重な歴史的資源が残され、史跡としても指定を受けています。



また、山上からの多島海の優れた景観や豊かな屋島の自然環境が、1934年に我が国で最初の国立公園「瀬戸内海国立公園」として指定される決め手となりました。

一方、海上や高松平野の至る所から、屋島を望見することができ、ランドマークとしての役割を果たしてきたことから、屋島は本市におけるシンボリック存在となっています。

その他、屋島山上の新屋島水族館や周辺の四国村などの施設は、本市ならではの特別な観光資源として活用することができます。

現在、屋島山上において、観光・MICEの拠点として、屋島山上拠点施設の整備が進んでいます。屋島山上拠点施設は、建築物そのものや、その周辺空間自体が屋島の自然環境に調和し、文化芸術性に富み、人々を惹きつけるような優れたデザインとなるよう設計が進められており、計画段階から注目されています。

完成後においては、屋島山上からの夕景・夜景や瀬戸内海の景観をいかした、特別なMICE施設として、アフターコンベンションやユニークベニューなどでも活用できます。

ユニークベニューとは	
<p>歴史的建造物、文化施設や公的空間等、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場をユニークベニューといいます。魅力的な地域資源を特別に開放し、有効活用するというこの取組は、すでに海外を中心に定着しており、我が国でもその積極的な開発を推進しています。</p> <p>史跡高松城跡 玉藻公園にある披雲閣は、国の重要文化財に指定されている歴史的建造物であり、観光庁の「ユニークベニュー ベストプラクティス集」にも掲載されています。和と洋の共存ができる場所での会議やランチ、レセプションの開催など、ユニークベニュー施設としての活用が期待できます。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">史跡高松城跡 玉藻公園内 披雲閣</p>

屋島の他にも本市のシーフロントには、瀬戸内海の多島美や男木島、女木島、大島などの島々、史跡高松城跡 玉藻公園、高松丸亀町商店街など、多様なMICEコンテンツが存在しています。

また、サンポート地区に香川県が建設を予定している新県立体育館は、既存のMICE施設と連携したMICE施設としても活用できます。サンポート地区に5,000人を超える規模の新県立体育館が建設されることで、大規模MICEの誘致にも取り組むことができます。シーフロントの魅力をいかしながら、サンポート地区の機能強化を図る必要があります。

本市のアフターコンベンション・ユニークベニューリスト例



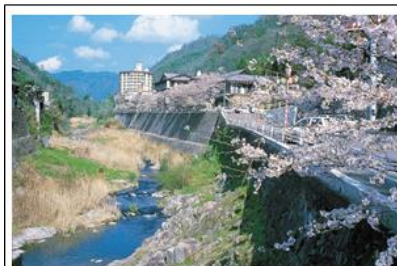
史跡高松城跡 玉藻公園
披雲閣



粟林公園 商工奨励館

基本設計のイメージを
貼付予定

屋島山上拠点施設



塩江温泉郷



瀬戸内海の島々
(男木島 男木交流館)



たかまつミライエ

③本市の持つ強み、弱みと外部環境（機会と脅威）

今後、MICE振興を推進していくためには、都市機能を高めると同時に、MICE関連設備の充実、豊富な観光資源の活用など、本市が持つ強みと資源をいかすことで弱みを強みに変える取組が求められます。

本市のMICE振興におけるSWOT分析

※本市のMICE振興における強みと弱みを内部環境と外部環境に分けて整理

	プラス面	マイナス面
	強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ○四国のゲートウェイ ○シーフロントのMICE施設の集積 ○雄大な多島美を持つ景観資源 ○コンパクトシティ ○雨天の少なさ（野外ユニークベニューの活用機会増大） ○国際会議の実績蓄積 （G7香川・高松情報通信大臣会合、第4回日仏自治体交流会議、第11回アジア太平洋盆栽水石高松大会） ○高松盆栽、高松丸亀町商店街などのMICEコンテンツの存在 ○新県立体育館の建設 ○屋島山上拠点施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○誘致のグローバル対応 ○本市におけるMICE振興に対するアピール不足 ○誘致推進体制（人材不足・ノウハウ不足） ○MICE施設間の連携 ○インバウンドインフラの整備 ○ビジネス・イノベーションの視点 ○補助金利用を前提とした誘致活動
外部環境	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
	<ul style="list-style-type: none"> ○瀬戸内国際芸術祭のマザーポート ○インバウンド市場の急拡大 ○アジアでのMICEの急増 ○MICE市場の変革期（M、I、C、E複合化開催の流れ） ○日本版DMO新設の機運 ○地方創生の機運 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・高齢化 ○近隣都市とのMICE競争激化 ○2020年オリンピック後の日本への注目度の低下

(3) 本市の課題

① ポテンシャルの活用

本市ならではのMICEコンテンツをいかしたMICE誘致を図るためには、MICEの開催情報の収集や管理と、MICE施設の予約や効率的な組み合わせを提案できる仕組みづくりが求められます。また、G7香川・高松情報通信大臣会合などの影響力が大きな国際会議の開催運営の実績や経験を誘致にいかせる体制づくりが必要です。

サンポート地区に新県立体育館が建設されることが決定しており、他のMICE関係施設と連携することにより、MICE機能の充実強化を図ることができます。同時に多様な観光資源など、シーフロントの魅力をいかしながら、MICEに求められるインフラ（公衆無線LANの拡充やMICE施設の機能向上）を整備するなど、サンポート地区の機能強化を図る必要があります。

② プロモーションの強化

本市におけるMICE開催の優位性や必然性を明らかにし、MICE向けの情報発信を積極的に行うために、誘致のためのホームページ、優位性を解説した小冊子、開催の成功をイメージさせるプロモーション映像などのツールの整備が求められます。

また、主催者情報の収集、関係機関との情報共有、誘致のための産官学市民連携などいわゆる総合的なマーケティングによるMICEブランドの確立に向けた取組が必要になります。

③ 組織的対応

MICEの誘致においては、自治体や地域のコンベンション・ビューローが単体で誘致活動を行うのではなく、学術分野では大学や研究機関など、政府系会議では県や国と、企業系会議では地域の有力企業や経済・産業団体、さらに市民との連携が不可欠です。本市においても、市と（公財）高松観光コンベンション・ビューローを中心として、香川県MICE誘致推進協議会やMICE施設間との連携を始め、産官学市民が一体となった組織的なMICE振興が求められます。この組織的な連携を効率よく進めるために、情報機器、データベースやインターネット技術の効果的導入やMICE振興に求められる人材の育成が必要となります。

受入環境の整備の一環として、MICE施設間の連携や、施設に関する窓口の一本化、さらにMICE開催の問い合わせや見積もり依頼の総合窓口の設置など（公財）高松観光コンベンション・ビューローを中心とする仕組みづくりが求められています。

また、市内のMICE施設やMICE関連事業者の組織化や主催者目線での対応、サービスをグローバルな水準に引き上げることなどが求められています。

④産業活性化

M I C Eのイノベーションの機会を増大させる効果を本市の産業に活用することで、ビジネスの機会を増やすことができ、新しいビジネスも創出にもつな갑니다。

第 11 回アジア太平洋盆栽水石高松大会（A S P A C）開催が盆栽の魅力の世界へ発信する一助となったように、本市ならではのM I C Eを新しく開催することで、産業の活性化につなげ、ビジネス機会の増大や新しいビジネスを創出する創造的な環境づくりが必要となります。

第2章 基本戦略

本市のMICE振興を推進していくための未来像を明らかにし、関係者が共通の目標に向かって取り組めるように、目指す方向性を示します。

これまでのMICE誘致を強化するとともに、主催者目線での対応や本市ならではのMICEコンテンツや地域特性をいかして、本市におけるMICE開催の付加価値を生み出すことにより、誘致競争力を高めていきます。

また、MICEの開催により、ビジネス・イノベーションの機会の創造や人材育成につなげるなど、MICEの開催効果の最大化を図り、高松らしいMICEの創出を目指します。

1 本市の目標とするMICE

本市が目指すMICE振興の方向性を次のように設定し、関係者と共有しながら、戦略的にMICE振興を推進します。

(1) MICEの形態

「第6次高松市総合計画」における“目指すべき都市像”の実現に向けたまちづくりの目標の一つである「産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち」を実現するため、本市におけるMICEの意義の達成を目指して、MICEの積極的な誘致に努めます。

MICEの中でも、開催効果が高い国際会議や学会等のコンベンションを中心に誘致を進めます。また、地域への経済波及効果が高いインセンティブ・ツアーや、ビジネス効果の高い展示会などについても誘致に取り組みます。

(2) MICEの分野

MICE誘致において、競争力を持ち、他都市との差別化をしやすいMICE分野として、本市ならではの学術分野や産業分野のMICEコンテンツを重視します。

①本市ならではのMICEコンテンツ

例) 高松盆栽、屋島、コンパクトシティ、高松丸亀町商店街など

②市内の大学等における重点研究分野

例) 香川大学の研究分野であるナノテクノロジー、バイオ、環境、希少糖など

(3) 規模

サンポート地区のMICE機能を有する施設である高松市文化芸術ホールやかがわ国際会議場、周辺のレクザムホール（香川県県民ホール）などの収容能力から、500人～2,000人規模のMICEに特に重点をおきます。また、香川県が建設を予定している5,000人を超える規模の新県立体育館の整備によって、収容能力が大幅に拡大することから、MICE参加者のアクセスの向上や施設間移動のストレスフリー化等を図るための周辺環境整備に努めます。

(4) 高松らしいM I C Eの創出

①開催効果の最大化

M I C E開催に当たっては、本市の強みである文化芸術などの持つ創造性をいかしながら、教育・啓発活動などの関連事業や周辺イベントの企画、運営を進め、開催効果の最大化を図ります。

また、M I C Eの開催により、産業の活性化や人材育成など、本市の長期的な競争力向上に取り組めます。

②シーフロントのM I C E施設の集積を活用、都市機能の連携

M I C E施設は、M、I、C、Eのそれぞれが使用する会場のことで、本市ではシーフロント、特にサンポート地区に高松市文化芸術ホール、かがわ国際会議場、宿泊施設が集積しており、その周辺にはレクザムホール（香川県県民ホール）などもあります。また、「高松Tゾーン」の3大観光地区であり、ユニークベニューでもある史跡高松城跡 玉藻公園や栗林公園、屋島などの各拠点もいいます。

本市の強みでもあるシーフロントのM I C E施設の集積を活用するとともに、「高松Tゾーン」内のM I C E関係施設との連携や高松空港からシーフロントへの交通アクセスなどの本市の都市機能を最大限にいかした高松らしいM I C Eに取り組めます。

③本市のシンボル「屋島」の活用

本市のシンボルである屋島の固有かつ多様なポテンシャルを活用し、他都市との差別化を図ることは、本市ならではのM I C Eを振興する上で、不可欠な要素です。

本市のシーフロントの重要拠点でもある屋島は、前述のとおり、天然記念物の指定を受けているほか、古代山城屋嶋城、屋島寺、源平合戦古戦場などがあり、史跡にも指定されています。また、我が国で最初の国立公園に指定される決め手となった、山上からの多島海の優れた景観や豊かな自然環境など、固有かつ多様な価値を有する屋島は、本市のシンボルとなっています。

2013年1月には、「屋島活性化基本構想」を策定し、市民と一体となって、その特性や価値の保存と地域資源としての有効活用を図り、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして、さらなる魅力の向上を図っています。

コンベンションエリアであるサンポート地区と屋島の回遊性を確保するとともに、屋島の夕景・夜景を楽しむミニツアーの商品開発などのアフターコンベンションや、山上からの景観や自然環境などの多様な魅力をいかしたユニークベニューとしての活用も多面的に取り組んでいきます。

また、現在、整備を進めている屋島山上拠点施設を核として、屋島山上や周辺の施設を活用しながら、香川県、四国、瀬戸内海といった広範なエリアにおけるM I C E拠点として、グローバ

ルMICE／強化都市等との連携を図り、サテライト会場やエクスカージョンとしての活用も検討します。

このように多様な価値を持った屋島は、本市ならではのMICEを提供するために不可欠な要素であり、屋島をMICEで活用することにより、MICE振興にはアフターコンベンションやユニークベニューによる本市ならではの付加価値を、屋島にはMICE参加者によるにぎわいを創出することができます。

本市のシンボルである屋島をMICE振興に活用するとともに、屋島活性化に関する事業の推進により、屋島の魅力が向上することは、その相乗効果で本市全体の活性化につながります。



2 本市のMICE目標指標

本市のMICE振興における数値目標を次のように設定し、戦略的に施策を実施していきます。

<コンベンション数>

現状（2015年度）	目標（2023年度）
217件	306件
（公財）高松観光コンベンション・ビューローのコンベンション統計におけるコンベンション開催件数を目標として設定します。件数は国際会議だけでなく、学会や国内大会、スポーツ大会、合宿などを対象としています。	

<国際会議開催件数>

現状（2015年）	目標（2023年）
5件	10件
日本政府観光局（JNTO）の国際会議統計における国際会議開催件数を目標として設定します。	

第3章 「高松市MICE振興戦略（仮称）」の重点施策

本市のMICE振興を推進していくために、「受入環境の整備」、「誘致強化」、「MICE振興のための産官学連携」、「MICEの創出」の4つの重点施策を実施します。

1 受入環境の整備

M I C E 振興の前提となる国内外から来訪する主催者や参加者を迎え入れるための交通アクセス、M I C E 施設などのインフラを始めとするハードの整備及び主催者が求める運営、情報交換、人脈づくりに求められる支援やサービスなど、受入環境を整備する必要があります。

また、M I C E 開催時における主催者や参加者から高い評価を得ることにより、さらに誘致が有利になるような好循環を生み出します。主催者がM I C E の目的を達成することに集中できる環境を提供するとともに、参加者が安心して快適に、移動、討議、滞在、宿泊、観光ができる受入環境を整備します。あわせて、大きな開催効果を本市にもたらず仕組みづくりにも取り組みます。

(1) MICE施設

①既存MICE施設連携・機能強化

本市の強みをいかすことができるMICEを数多く誘致し、開催するためには、MICEを複数の会場で同時に行えることが望ましく、コンベンションエリアとなるサンポート地区の高松市文化芸術ホールなどを含めた複数施設の一体利用や、市内及び周辺市町のユニークベニユーの有効活用を図り、そのためのサービスを一本化して提供できるように努めます。

また、設備の更新や改修等により施設が使用できない場合には、周辺施設と連携して、主催者への対応や代替施設を調整するなどの対応に努めます。

さらに、公衆無線LAN等のインターネット接続環境は、MICEを開催する上で欠かせないものとなっており、各MICE施設で快適に利用できる必要があるため、主催者からの要求に対応できるよう取り組みます。

【主な取組】

- ・施設関係者のMICE振興に対する意識共有、連携強化
- ・公衆無線LANの拡充整備及びコンテンツの開発
(アプリを通じた館内案内、MICEの催事情報や周辺の飲食店情報の提供など)

②MICE開催に必要なインフラの整備

MICE開催においては、開催都市までの交通手段や会場間の移動など、交通アクセスが重要視されます。また、本市への交通アクセスを整備することは、グローバルMICE/強化都市を始めとした近隣都市と地域間連携の促進にもつながります。

県と連携した国内・国際定期路線の充実等や、四国の新幹線導入に向けて関係機関等と連携して取り組むとともに、高松空港からのアクセスや会議場や展示場間の移動などの二次交通手段の提供を検討します。また、様々な国から本市を訪れる参加者に対し、より効果的・効率的な情報提供や案内が可能となる案内板の整備にも取り組みます。

【主な取組】

- ・県と連携した国内・国際定期路線の充実等
- ・四国の新幹線など高速鉄道ネットワーク整備に向けた連携
- ・MICE施設間移動のための二次交通手段の検討
- ・サンポート地区などの観光案内板の整備

③施設不足による機会損失対策

M I C Eの規模によっては、現状のM I C E施設では収容能力不足となり機会損失が生じることも考えられます。そのため、サンポート地区のコンベンションエリアにある複数のM I C E施設の同時利用による最大収容能力から開催可能な規模のM I C Eを提案できるようにするなど、対応策を検討します。

また、将来的には香川県がサンポート地区に建設を予定している新県立体育館がM I C E施設として加わることから、収容能力が大幅に拡大するとともに、これまでサンポート地区に不足していた展示機能が、アリーナの展示場利用によって強化されるので、多様な利用用途を提案できるようにします。

【主な取組】

- ・ M I C E施設需要拡大時への対応策の検討と対策
- ・ 会議場不足時の複数M I C E施設一括利用の予約、運営、輸送等の検討
- ・ 新県立体育館のM I C E会場としての活用検討
- ・ 将来のM I C Eの動向に沿った本市における需要調査
(需要予測、宿泊施設誘致、M I C E施設の再整備・新設、P F I手法等)

(2) 支援・サービス

①主催者支援、参加者への対応

主催者がMICEを成功できるように、開催前の準備、開催中、開催後におけるサービスの提供及び支援ができる仕組みづくりに取り組みます。

開催中は適切な運営支援と快適な滞在環境により成果を高められるように努めます。開催終了後には、本市の観光などに関する情報提供や支援ができるようにし、MICE参加者が本市の魅力を感じること、リピーターとしての再訪につなげるように努めます。

【主な取組】

- ・本市の都市機能を中心とした滞在情報の提供
- ・観光、食、宿泊、買い物など、本市滞在中の満足度を高める情報の提供

②ワンストップ窓口の設置

大規模MICE開催では、MICE施設が1つの施設の利用にとどまらないことが多いため、近隣にある複数のMICE施設を一元的に予約利用できるようなワンストップ窓口を設置するなど、主催者や会議運営会社の負担の軽減に努めます。

また、施設の予約にとどまらず、MICE運営に関する支援や、市内滞在における支援等も同じ窓口で対応することにより、主催者や参加者の利便性向上に努めます。

MICE施設や（公財）高松観光コンベンション・ビューロー、香川県MICE誘致推進協議会と連携して、施設利用上のルールや申請書類を共通化するなど、主催者目線に立ったワンストップ窓口の実現を目指します。

【主な取組】

- ・主催者からの施設予約及び開催に関する問い合わせ等に一元的に対応する（公財）高松観光コンベンション・ビューロー内ワンストップ窓口の設置を検討
- ・MICE関係施設や（公財）高松観光コンベンション・ビューロー、香川県MICE誘致推進協議会と連携した施設利用上のルール（予約受付等）や申請書類の共通化の検討

(3) アフターコンベンション

M I C E 終了後の観光を促すために、参加者向けに本市周辺の多様な観光プランを提供することで滞在期間を延ばし、経済波及効果を高めることにつなげるとともに、本市の観光都市としてのブランドイメージの向上を図ります。さらに、M I C E 参加者がリピーターとして再訪につながるような仕組みづくりに取り組みます。

屋島や瀬戸内海の島々を始めとする本市ならではの観光プランや回遊を促す旅行を効果的に情報発信することで、主催者及び参加者が本市の自然や歴史、文化、食などさまざまな観光の魅力を体験できるように努めます。

【主な取組】

- ・ 観光情報の効果的な提供方法や媒体の検討
- ・ M I C E の主題に係る観光プランや小規模旅行の開発及び宣伝ツールの制作
- ・ 広域観光周遊ルート「スピリチュアルな島～四国遍路～」、「せとうち・海の道」の活用
- ・ 屋島や瀬戸内海の島々など本市の魅力を最大限にいかした観光周遊ルートの情報発信

(4) 開催効果最大化のための連携

M I C E開催時に主催者や参加者等と、本市の事業者や市民との交流の機会をつくるためには、主催者との事前の情報共有や準備が必要となります。それを実現するために、香川県M I C E誘致推進協議会と連携して、市内のM I C E関連事業者とのつながりを強化し、主催者情報の共有、事例情報などの交換ができる仕組みづくりに取り組めます。

また、交流の場を企画・運営するM I C E関連事業者にとって、参加者の満足度を高めるためには専門的な対応が必要です。M I C E関連事業者の企画力や技術力の向上が求められるため、M I C E専門人材の確保や育成の支援を検討します。

【主な取組】

- ・ M I C E関連事業者の情報共有、連携促進、ノウハウ継承の促進
- ・ M I C E関連事業者向けスキルアップ研修の検討

(5) M I C E 商品開発

① M I C E 施設連携商品開発

施設の利用方法や組み合わせによる利便性向上など、具体的かつ高度な利用方法を主催者に提案することで、実質的な稼働率が高められ、経済波及効果も高まります。近隣の複数施設の一体利用を増やすために、必要な連携条件等を検討し、具体的なM I C E 施設商品として提案できるように努めます。

また、通常時には会議場として使用しない空間を会議場とするなどのM I C E 商品の開発も検討します。

【主な取組】

- ・ サポート地区のM I C E 施設を一体利用する場合の収容能力、利用条件等の検討
- ・ 二次交通手段の提示を含めた施設利用商品の検討
- ・ M I C E 施設利用商品のプロモーション資料の作成
- ・ 会議場以外の空間を活用したM I C E 商品の開発

② エクスカーションの開発

M I C E 開催の効果を高めるためには、M I C E 開催の中に公式プログラムとして組み込まれる技術視察や小旅行であるエクスカーションが、本市で多く実施されることが重要です。

また、M I C E 誘致に当たっては、本市にある研究施設や生産施設、生産現場等への視察が効果的な場合があります。本市ならではのM I C E 商品を提案できることが誘致力を高めることにもつながるため、主題別に実施が可能な技術視察などのM I C E 商品を予め準備できるように施設や事業者へ働きかけるなど、主催者にいつでも提案できるよう努めます。

同様に主催者によって、主題に関連した景観、体験施設、美術館や博物館のような観光施設をまわる小旅行が組み込まれることがあります。そのため、本市ならではの施設や体験を旅行プランとして提案できるように努めます。また、本市だけではなく、グローバルM I C E / 強化都市や瀬戸・高松広域連携中枢都市圏を形成する市町等と連携した広域的なエクスカーションプランの作成を目指します。

【主な取組】

- ・ エクスカーション向けの商品開発（広域的なプランも含む）
- ・ 本市ならではの技術視察商品の開発
- ・ 屋島や瀬戸内海の島々など本市の魅力を最大限にいかしたエクスカーションの検討

③ユニークベニユーの開発

主催者や参加者にとって会議施設とは違い、ユニークベニユーでのパーティーがもっとも高松らしさを体験できる貴重な機会となり、長く記憶に残る可能性が高いと考えられます。

観光庁は本市の利用可能なユニークベニユーとして、栗林公園商工奨励館（庭園）、史跡高松城跡 玉藻公園（歴史的建造物・城郭・公園）、高松琴平電気鉄道株式会社（電車・工場）などがリスト化されています。本市の誘致力を強化し、開催効果を大きくするため、それぞれの関係者と連携してユニークベニユーの満足度を高め、さらに充実させる必要があります。また、屋島を始めとする本市の観光資源をユニークベニユーとして活用するなど、新規開発にも取り組みます。

【主な取組】

- ・ユニークベニユーの新規開発及びメニューの充実
- ・ユニークベニユー向け規制緩和や利用ガイドライン作成の検討
- ・ユニークベニユーデータベースの構築
- ・宣伝ツールの制作、宣伝活動

④本市のシンボル「屋島」の活用

サンポート地区のコンベンションエリアと連携し、本市のシンボルである屋島をMICE振興に活用することで、MICEにおける本市ならではの魅力を創出することができます。

最大の資源である山上からの眺望（多島美、夕景・夜景）や、古代山城屋嶋城・源平の史跡・屋島寺・遍路道、自然・地形遺産などの多様な観光資源を活用した本市ならではのコンベンションや懇親会、ミニツアーなどのアフターコンベンション、ユニークベニユーとして屋島を活用することが、屋島の活性化だけでなく本市全体の競争力向上につながります。

また、屋島はその多様な価値から、香川県、四国、瀬戸内海といった広範なエリアにおける拠点として、グローバルMICE／強化都市等と連携して、サテライト会場やエクスカージョンとしての活用も検討します。

さらに、サンポート地区のコンベンションエリアと屋島との回遊性の確保が求められ、屋島ドライブウェイの無料化・市道化とともに、駐車場の確保やシャトルバスの運行など交通アクセシビリティの強化を行っていく必要があります。

【主な取組】

- ・屋島山上拠点施設の整備
- ・屋島を活用したアフターコンベンション、ユニークベニュー等の開発
- ・ジオパーク構想との連携など屋島の魅力向上
- ・交通アクセシビリティの向上
- ・屋島レクザムフィールド（高松市屋島競技場）の活用

2 誘致強化

誘致体制の整備、開催に関連する情報収集力の強化、誘致を促進するための効果的なツール類の制作等、M I C E誘致力の強化に努めます。また、本市でのM I C E開催の必然性や成功のイメージを主催者に伝えるという視点から誘致を戦略的、組織的に推進します。

(1) 誘致推進体制

① 誘致体制の整備

MICEは一般的な観光の集客手法とは異なり、誰が、どのように、対象となる主催者にアプローチするかが重要です。MICE開催を決定する主催者（事務局、学会・協会、会議運営専門会社（PCO）、民間企業など）に対する専門的な誘致活動が求められます。そのためMICEの誘致では人脈づくりが大きな影響力を持ちます。特に国際会議や学会の誘致は長期に携わる必要があることから、同じ担当者による誘致活動が効果的であり、本市においてもMICE専門の窓口と担当者の設置を検討します。

【主な取組】

- ・本市のMICE専門の窓口と担当者の設置
- ・誘致担当者を固定化することによる人脈の構築
- ・誘致専任担当の確保、育成、スキルアップ、グローバル対応
- ・（公財）高松観光コンベンション・ビューローの体制強化

② 誘致における効果的な連携

誘致活動が活発化し競争が激化しているため、香川県を始めMICEに関する産官学市民が連携した誘致体制により、誘致活動をこれまで以上に強化する必要があります。本市は（公財）高松観光コンベンション・ビューローや香川県MICE誘致推進協議会等と連携して、さらに効果的な誘致に努めます。

また、大規模なMICE開催においては、プログラムの一部を開催会場から離れた都市で開催することもあり、そのようなMICEに対応するため、大規模MICEの開催の機会が多いグローバルMICE都市である神戸市やグローバルMICE強化都市である広島市との連携も検討します。

【主な取組】

- ・官民一体の誘致体制の強化（大規模MICE誘致対応）
- ・近隣自治体との広域連携（会場連携やエクスカージョンなど）
- ・グローバルMICE／強化都市との連携検討

(2) マーケティングの強化

① 誘致情報の収集・管理・共有

M I C E の開催情報、主催者及び開催地決定権者の情報を入手し、市場の動向を把握できるように努めます。また、開催情報を定期的に収集することで誘致対象とすべきM I C E を絞り込み継続的な誘致活動にいかします。

また、収集したM I C E の開催情報や主催者情報を誘致に活用するには、情報の一元管理と本市、香川県、M I C E 関係者での共有が必要なため、香川県M I C E 誘致推進協議会などと連携することにより、情報運用の仕組みづくりに努めます。

【主な取組】

- ・ 定期的なM I C E 開催情報の収集
- ・ 情報収集のための人脈づくり
- ・ 本市、香川県、M I C E 関係者での情報共有及びそのツールの検討
- ・ 東京事務所等への出向者によるM I C E 開催情報の収集
- ・ 誘致活動の進捗情報の一元管理

② 誘致ツールの整備

開催地を検討している主催者向けに、必要な情報と本市でM I C E を開催する優位性や利点を伝えることができる誘致ツールを整備することで、本市のM I C E 誘致における競争力を高めます。

そのために、開催地の選定に求められる情報を掲載するM I C E 誘致のホームページ、誘致専用小冊子（ミーティング・プランナーズ・ガイド）、プロモーション映像等を制作し、主催者に提供します。誘致ツールの制作においては、それぞれを独立して制作するのではなく、媒体の特性をいかして、相互に補完できるような効果的なツールの制作を目指します。

誘致ツールにより、本市のM I C E 施設や観光、文化・芸術・スポーツやアフターコンベンションに関する情報、補助金制度の案内等を発信し、本市でM I C E を開催する優位性や利点を伝えることで、主催者が本市でのM I C E 開催の必然性と成功を理解できるように努めます。

【主な取組】

- ・ M I C E 誘致ホームページの制作・**情報発信の強化（多言語対応等）**
- ・ 誘致専用小冊子（ミーティング・プランナーズ・ガイド）の制作
- ・ M I C E 誘致専用プロモーション映像の制作
- ・ M I C E 誘致及び参加者向け市内ガイド専用情報端末ソフトの検討

(Webからの申込、会場施設利用料の見積等)

③経済波及効果算出のための調査及び分析

(公財)高松観光コンベンション・ビューローによりコンベンションの開催件数による経済波及効果の計算が行われています。今後は、観光庁が利用を推奨する「MICE開催による地域別経済波及効果測定のための簡易測定モデル」による経済波及効果測定を導入し、その計算に必要とされる情報を定期的に収集し分析することを検討します。これにより他都市とのMICE開催による経済波及効果を比較できるようになります。

【主な取組】

- ・経済波及効果測定計算に必要な情報の収集（開催終了時の主催者及び参加者アンケートの実施）
- ・コンベンション数総計の項目及び算出方法の再検討
- ・基礎情報の収集により観光庁算出計算式による算出・分析

④開催満足度調査・潜在ニーズ調査

本市でのMICE開催時に主催者及び参加者に対して、開催満足度調査・潜在ニーズ調査を実施し、結果を分析することにより、今後のMICE開催における満足度の向上を図ります。また主催者による要求の経年変化を分析することで、将来に求められる施設の機能や利便性を予測し、今後の施設の機能強化や拡張、さらには新規MICE施設建設の検討などに役立てます。

【主な取組】

- ・主催者及び参加者へのアンケートの実施
- ・MICE開催における重要人物へのヒアリングの実施

(3) 誘致活動

① M I C E の形態別誘致活動

M I C E の形態別誘致の対象（Mでは企業、Iでは専門会社、Cでは主催者やP C O、Eでは協会や団体、展示会専門会社など）に合わせたアプローチにより誘致を推進します。

その中で、国際機関・団体、学会等が行うコンベンションの誘致においては、政府系会議、学術系会議、企業系会議と会議の形態に合わせて、主催者や重要人物にアプローチします。また、誘致活動を通じて、本市において開催可能性が高いM I C E の情報を収集し、今後の誘致活動に役立てます。

特に、政府系国際会議や大規模M I C E については、香川県M I C E 誘致推進協議会と連携して、誘致に取り組みます。

【主な取組】

- ・ 市内M I C E アンバサダー（主催者になりうる重要人物）の発掘、協力要請、共同誘致の検討
- ・ P C O、旅行会社、主催者、開催地決定権者、インセンティブ・ツアー受入専用会社やD M C 等への定期的な誘致活動
- ・ 開催地決定責任者の招聘の検討
- ・ 四国内、県内大学への誘致活動・誘致人脈の構築
- ・ 国内外のM I C E 展示会、商談会への参加（観光庁主催M I C E 見本市など）
- ・ トップセールスによる誘致活動及び招請状発行の仕組みづくり

②インセンティブ・ツアー商品開発

観光資源を最もMICEに活用しやすいインセンティブ・ツアーの誘致に当たっては、本市の強みをインセンティブ・ツアー向けに具体的にパッケージ化し、要求に応じていつでも提案できるようにする必要があります。

本市の特徴をいかすことができる屋島や瀬戸内海の島々、広域観光周遊ルートに認定された四国四県が連携する「スピリチュアルな島～四国遍路～」や瀬戸内海沿岸の七県が連携する「せとうち・海の道」、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の各市町などと連携して、インセンティブ・ツアーの広域コースを検討します。パーティー会場や屋外の空間を活用した表彰式など、求められるプログラムを組み込んだ商品開発への活用を図ります。

インセンティブ・ツアー向けの商品開発では、通常の観光延長線上に考える「企業の団体旅行」とは区別し、主催者要求に対応した商品開発を目指します。特にインセンティブ・ツアーではユニークベニューに求められる水準が高いため、効果的な演出や本市ならではの飲食の提供など、付加価値が高く、他都市との差別化を強く打ち出すことができる商品を検討します。

インセンティブ・ツアーの誘致においては、国内・国際定期路線をいかしたインバウンド市場も意識しながら、アジアとの価格競争とは別に、本市ならではの強みをいかしたコースやサービス水準を高めることで、競争力を強化します。

【主な取組】

- ・本市のシンボル「屋島」の活用
- ・広域観光周遊ルート「スピリチュアルな島～四国遍路～」、「せとうち・海の道」をいかした商品開発の検討
- ・瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の各市町との連携
- ・さぬきうどんや高松盆栽を活用したインセンティブ・ツアー商品の開発
- ・インセンティブ・ツアー向けの効果的な雰囲気づくりや参加者の結束を高めるプログラム開発

③海外に向けた誘致活動

グローバルな誘致のための情報発信ができる仕組みづくりに取り組みます。そのために、すでに交流実績がある海外の姉妹都市や友好都市との連携による新たなM I C E開催の検討を行います。また、国際協力機構（J I C A）や日本貿易振興機構（J E T R O）などとの連携や、国際会議協会（I C C A）への加盟検討など、グローバルなM I C E誘致を図ります。

さらに、香川県と連携した国内・国際定期路線の充実等や、海外からの訪問客に対する受入環境の整備に努めます。また、グローバル誘致に求められる多言語への対応や海外のビジネス習慣への理解など、誘致担当者の能力向上を図ります。

【主な取組】

- ・ 海外からのM I C E視察の積極的受入
- ・ 日本政府観光局（J N T O）の海外M I C E向け誘致・開催支援機能の活用
- ・ 姉妹都市や友好都市等との連携によるM I C E開催の検討
（セント・ピーターズバーグ市、トゥール市、南昌市、基隆市など）
- ・ 海外からの訪問客の受入環境の整備
- ・ 国際会議協会（I C C A）への加盟検討（人脈、情報交換、M I C E情報データベース等の活用）

(4) 効果的な財政支援

(公財) 高松コンベンション・ビューローで開催支援補助金制度を運用しています。この補助金の投資効果を検証しながら、M I C Eの振興を加速させる支援制度を目指し、現行補助金制度や、財政支援の仕組みを見直します。

さらに、開催決定後の支援だけではなく、開催が決まる前の段階においても、誘致を成功させるための海外誘致活動時や新規のM I C Eを創り出すためなど、M I C E振興に効果的な新しい財政支援が行えるよう検討します。

【主な取組】

- ・ 開催支援補助金制度の見直し
- ・ 誘致活動を支援する制度の検討
(海外セールス渡航費、開催視察、開催誘致提案書作成の支援等)

3 M I C E 振興のための産官学連携

M I C E 振興によるまちづくりを推進するためには、市民との連携はもとより、より強い産官学連携が求められます。

(1) M I C E 振興のための連携

M I C E の振興に当たっては、誘致を始め M I C E 振興全体に関わる産官学連携が重要となります。特に M I C E 開催時の効果を高めるためには、多様な M I C E 参加者と産業や経済界、学術関係者、自治体関係者などとの交流の機会を提供する関連事業や周辺イベントを数多く実施する必要があります。そのため、香川県 M I C E 誘致推進協議会等と連携しながら、産官学連携による開催効果を最大化できる仕組みづくりに取り組みます。

また、M I C E を推進する都市では、M I C E コンテンツを多く持つ地域の大学と M I C E の誘致から振興に協力するための包括協定や契約を締結する例もあります。本市においても、香川大学等との M I C E に関する連携強化を検討します。

【主な取組】

- ・香川県 M I C E 誘致推進協議会等と連携した産官学連携の仕組みづくり
- ・香川大学等との M I C E 振興に関する連携強化の検討
- ・ M I C E による地域経営機能（DMO 的機能）の強化検討

(2) 戦略推進の実行体制

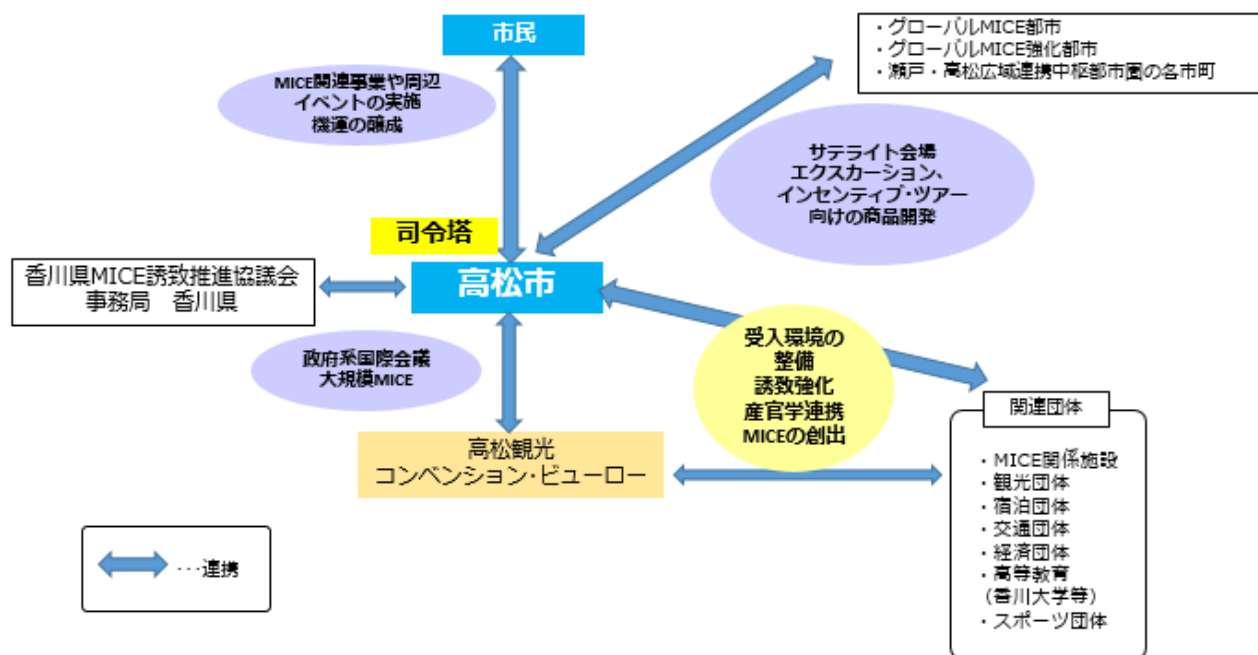
本戦略の推進に当たっては、本市及び（公財）高松観光コンベンション・ビューローが中心となって取り組み、誘致活動や開催効果最大化のための産官学市民の連携を促進するとともに、組織的にMICE振興を推進できる実行体制を整備する必要があります。

また、香川県MICE誘致推進協議会に参画し、MICEの形態や主題によっては、観光庁や日本政府観光局（JNTO）とも連携しながら、誘致活動を進めます。特に、政府系国際会議や大規模MICEについては、香川県MICE誘致推進協議会と連携して、誘致に取り組みます。

さらに、開催効果を高める事業の実施、ユニークベニユーの開発などに対応できるよう体制強化に努めます。

【主な取組】

- ・ MICE版DMO設置の検討
- ・ 香川県、関係団体等との共同誘致活動（政府系国際会議、大規模MICEなど）



4 MICEの創出

本市の地域特性をいかした高松らしいMICEを創出することにより、他都市との差別化をすることができます。

また、関連事業や周辺イベントの開催や、市民のMICE開催の効果に対する理解を深めることで、MICE開催の効果を最大化するとともに、本市が主体的にMICEをまちづくりに活用することができます。

(1) 高松らしいMICEの開催

本市ならではのMICEコンテンツや、「高松Tゾーン」内のMICE関係施設や交通アクセスなどの都市機能、本市のシンボル「屋島」の活用など、本市の特徴をいかした高松らしいMICEを開催することは、他都市との差別化をすることにつながります。また、本市ならではのMICEを創出することで、開催件数が少ない時期を開催期間とすることや、関連事業や周辺イベントを実施しやすくなることにつながり、本市のMICE振興において、大きな強みとなります。

高松らしいMICEを開催するためには、市場の動向と本市の実情、関係者間を調整できるMICE専門の人材確保や仕組みづくりが求められます。香川県MICE誘致推進協議会と連携し、本市の産業や経済界、学術関係者、自治体関係者、市民、市民団体などとの連携や情報交換ができる仕組みづくりを行い、高松らしいMICEを開催できる人材の発掘や育成を図ります。

【主な取組】

- ・ 将来、MICEを開催できる人材の発掘とその人脈づくり
- ・ MICEコンテンツになりうる分野の調査
- ・ 類似MICEの集約、小規模MICEの規模拡大などの支援検討

(2) 開催効果を高める商品開発

M I C E 開催の効果を大きくするために、多様な関連事業や周辺イベントを実施し、M I C E の主催者や参加者と本市関係者との交流の機会を数多く提供する必要があります。そのため、M I C E の主題に沿った関連事業や周辺イベントを企画し、M I C E の商品として提供できるように努めます。このようなM I C E 商品の開発は広範囲に及ぶため、多くのM I C E 関係者やM I C E 関連事業者と連携して商品開発を進め、M I C E 関連事業のビジネス機会を増加させることを図ります。

【主な取組】

- ・ M I C E 開催に合わせた関連事業や周辺イベントの実施
(経済界、大学関係者、学生、市民、近隣行政関係者向けなど)

(3) 機運の醸成

一般的にMICEという言葉に馴染みがないため、観光やインバウンドと同じように捉えられることがあります。そのため、MICE振興やその効果に対する理解を深めるとともに、本市全体でMICEを受け入れ、発展させるための機運の醸成を図ります。

香川県MICE誘致推進協議会等と連携して、MICEの振興が本市の成長に必要であることが市民はじめMICE関連事業者に浸透するように、啓発活動に取り組みます。

また、開催されるMICEの主題に関係した市民公開講座や市民向けの連携イベントを実施することで、市民が直接MICEに触れる機会や市民ボランティアによるMICEへの直接参加する場の提供など、本市におけるMICE振興の機運の醸成に努めます。

【主な取組】

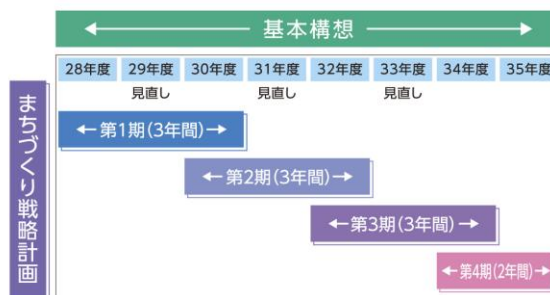
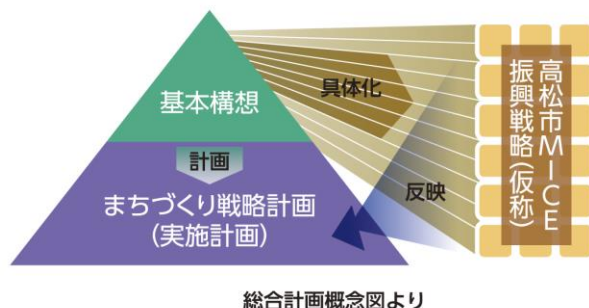
- ・市民向けMICE啓発のためのセミナー実施
- ・市内事業者向けMICEによる事業展開の啓発研修の実施
- ・MICEの主題に関係した市民公開講座や市民イベントの実施

第4章 戦略の推進

「第6次高松市総合計画」における“目指すべき都市像”の実現するため、次のように本戦略を推進します。なお、本戦略は2017年度から2023年度までの7年間とし、「高松市まちづくり戦略計画」の中で進行管理を行います。

「高松市まちづくり戦略計画」は、まちづくりの目標達成に向け、現実の行財政運営において、重点的・戦略的に推進する主要な施策・事業等について、実施年度、事業量等を具体化する短期的な実施計画として定めるもので、毎年度の予算編成及び事業実施の指針とするものです。本戦略は、「第6次高松市総合計画」の基本構想を具体化する分野別計画として位置付け、進捗状況は行政評価などにより公表します。

第6次高松市総合計画



本戦略の推進に当たっては、戦略推進の実行体制を整備するとともに、取組の優先順位を明確にしなが、施設間連携を始めとした受入環境の整備や、誘致ツールの整備などによる誘致を強化します。また、産官学市民との連携により、本市ならではのMICEの創出、MICE関連事業者のサービス水準の向上、誘致に当たって提案力の強化などに取り組みます。

MICE開催においては、開催効果が最大化するように取り組み、地域への経済波及効果、ビジネス・イノベーションの機会の創造及び都市のブランドイメージの向上のさらなる達成を目指します。

このような取組の成果により、本戦略の最終年度である2023年度までに、観光・MICE都市としての知名度を向上させてブランドイメージを確立し、MICEの振興による「産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち」の実現を目指します。

【資料編】

1 高松市M I C E 振興戦略（仮称）策定経過

年 月 日	内 容
2016年 6月 7日	○第1回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会 ・会長・副会長の選任について ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の策定について
2016年 8月 16日	○第2回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会 ・M I C E の考え方の整理 ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の骨子案について ・誘致推進体制について
2016年 9月 30日	○高松市M I C E 振興戦略（仮称）策定にかかるワークショップ 本戦略の策定に当たり、M I C E 関係者に御議論いただき、施策案等の参考とした。 【参加者】 有識者、施設関係者、宿泊事業者、観光事業者、旅行事業者、交通事業者、経済団体、金融関係、行政（計19人）
2016年 11月 30日	○第3回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会 ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案について ・香川県M I C E 誘致推進協議会について
2016年 12月 15日	○市議会総務消防調査会 ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案について
2016年 12月 21日 ～2017年 1月 20日	○高松市M I C E 振興戦略（仮称）の素案についてのパブリックコメント実施 ・意見件数4件
2017年 2月 20日	○市議会総務消防調査会 ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の原案について
2017年 2月 22日	○第4回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会 ・高松市M I C E 振興戦略（仮称）の原案について

2 高松市M I C E振興戦略策定懇談会

本戦略の策定に当たっては、本市のM I C Eに関係する各分野で活躍する学識経験者、経済団体関係者、観光に関する事業者、M I C Eに関する事業者などからなる「高松市M I C E振興戦略策定懇談会」を設置し専門的な立場からの意見聴取を行った。

「高松市M I C E振興戦略策定懇談会」名簿（敬称略）

会長

村山 卓 香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授

副会長

角谷 寿彦 公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー コンベンション推進部長
(2017年1月まで)

橋村 秀樹 公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー コンベンション推進部長
(2017年2月から)

委員（五十音順）

安部 雅之 公益財団法人高松市文化芸術財団 常務理事

井上 知己 シンボルタワー開発株式会社 部長

鹿庭 弘百 一般社団法人 街角に音楽を@香川 代表理事

紀伊 雅敦 香川大学工学部安全システム建設工学科環境政策工学 准教授

坂口 祐 デザイナー／物語を届けるしごと

四之宮 和幸 四国旅客鉄道株式会社 営業部長

土居 邦壽 高松ホテル旅館料理協同組合 専務理事

西村 周子 公益社団法人高松青年会議所 理事長

三村 和馬 穴吹エンタープライズ株式会社 取締役 指定管理者事業部長

宮武 寛 高松商工会議所 常務理事・事務局長

矢田 博嗣 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会 委員長

オブザーバー

小幡 章博 国土交通省四国運輸局観光部 部長 (2016年6月まで)

堤 俊哉 国土交通省四国運輸局観光部 部長 (2016年7月から)

安松 延朗 香川県交流推進部 部長

3 MICE関係施設一覧

●会場等

名称	内容
高松市文化芸術ホール	サンポート高松の中核施設「高松シンボルタワー」内にあるコンベンション機能を有する施設。愛称はサンポートホール高松。大ホールと2つの小ホール、12室の会議室等を備えており、開催規模に応じた様々な会議、ミーティングなどのMICE開催も可能です。また、かがわ国際会議場と大ホールを映像・音声とも双方向、小ホール、展示場、54会議室は音声で双方向で繋ぐコンベンションネットワークを利用することで約3,000人規模の同時会議などにも使用可能です。
かがわ国際会議場	サンポート高松の中核施設「高松シンボルタワー」内にある会議場。国際会議などのコンベンションの他、展示会・セミナー・社内会議などのさまざまな形態のMICE開催が可能です。サンポートホール高松とのコンベンションネットワークにより、別会場をつないでの会議、分科会などを要する学会や会議などにも活用できます。
レクザムホール (香川県県民ホール)	香川県内最大規模のホール。2,001人収容の大ホールと807人収容の小ホールがあり、会議などを行えるほか、表彰式などの場としても利用できます。また、6Fにあるレストランは、会議後の食事の場などにも利用できます。
新県立体育館 (整備予定)	香川県がサンポート地区に整備を予定している中核的体育館。観客席5,000席以上のメインアリーナと小規模な大会の会場となるサブアリーナを有し、スポーツイベントだけでなく、学会や大会、コンサート等の大規模イベント、展示会、見本市など、多様な規模や内容のMICEの開催も可能となるほか、サンポート地区における他の施設との連携により、複合的な利用も期待できます。
サンメッセ香川	香川インテリジェントパーク内にある総合コンベンション施設です。大小さまざまな展示場・会議室があり、大規模なイベント・見本市から少人数の勉強会まで幅広く活用できます。
市民交流プラザ IKODE 瓦町	瓦町 FLAG (ことでん瓦町駅ビル) 内にある市民交流施設。市民サービス、健康長寿、アート、市民活動、図書の5つのゾーンで構成されており、小規模な会議等の開催や展示、ワークショップ等の場としても活用できます。
高松市生涯学習センター 「まなびCAN」	高松中央商店街のアーケード内にある、ことでん片原町駅徒歩1分の生涯学習施設。講演会などを開催できる220席の多目的ホールを始め、小規模の会議・セミナーにも活用可能な大・小研修室や視聴覚室のほか、和室なども備えています。
高松テルサ	小規模のセミナーや研修会に使用できる会議室、コンサートや講演会などに活用できる511席のホールのほか、宿泊施設、レストランも備える複合施設です。

●アフターコンベンション、ユニークベニュー等

名称	内容
史跡高松城跡 玉藻公園	日本三大水城、高松城。松平家当主の来賓をもてなすところとして使われていた披雲閣は大正時代を象徴する書院造の建物で、国の重要文化財にも指定されています。和と洋の共存ができる場所での会議やランチ、レセプションの開催ができます。
特別名勝 栗林公園	6つの池と13の築山がある回遊式大名庭園。明治時代に建てられた商工奨励館は、その趣を残しつつ2015年に内装を一新。北館には飲食を伴う式典やレセプション会場としても利用が可能なホールを備えています。また、園内には、抹茶や煎茶、食事を楽しむ施設があります。
屋島	古代山城屋嶋城、源平合戦古戦場、四国遍路の霊場地 屋島寺があり、日本初の国立公園にも選ばれた観光地。MICE開催時のアフターコンベンションのルートとして提案でき、高松らしいMICE開催の特徴となります。屋島山上拠点施設を会議や式典、エクスカージョンの会場とした場合には、その後、夜景を楽しむなどのアフターコンベンションも提案できます。
屋島山上拠点施設 (整備予定)	屋島に整備中の複合施設。瀬戸内の多島美を背景に、本市ならではの特別なMICEを演出できます。研修、交流イベント等が開催できる多目的ホールが計画されており、建設後は、施設を使った会議やレセプション、エクスカージョン会場としても利用できます。
屋島レクザムフィールド (高松市屋島競技場)	四国大会等の陸上競技大会が開催可能な「第2種公認陸上競技場」として整備された競技場。収容人数6,000人の観覧席を設けています。また、全国初となる棒高跳の公認競技が可能な室内競技場も併設。スポーツ関連のMICE誘致において活用できるほか、さまざまな式典などにも利用できます。
女木島、男木島、大島	瀬戸内の多島美を体感できる島々は、瀬戸内国際芸術祭で世界中から人々が訪れるなど注目を集める観光地であり、都市部からのアクセスが容易な島々は世界のなかでも類を見ないことから、島々でのエクスカージョンの提案は高松らしさを強く印象付けるものとなります。また、島々を巡るアフターコンベンションルートを提案するなど、高松らしいMICEを実現するための大きな要素となります。
塩江温泉郷	高松空港からのアクセスも良く、高松市中心部からも約40分で移動できることから、エクスカージョン会場として利用できるほか、アフターコンベンション提案の際に活用できます。
高松市美術館	高松市中心部に位置する都市型の市立美術館。高松中央商店街に隣接し、MICE誘致の中心となるシーフロントエリアからも徒歩圏内に位置するため、講演会やエクスカージョン会場などに幅広く活用できます。
たかまつ ミライエ	子育て支援や子どもの学習を目的とした複合施設。式典やエクスカージョン会場として利用できるほか、交流スペースや図書館、プラネタリウムは、アフターコンベンションにも活用できます。また、多目的室でのミーティングや講演会も開催でき、子どもに関するMICE開催に当たっては、市民とのワークショップなどの開催も可能です。
サンクリスタル高松	菊池寛記念館、歴史資料館、中央図書館から成るサンクリスタル高松は、本市の偉人や歴史を知ることのできる文化施設です。館内にはホール等を備えており、小規模の文化的な講演会や会合などのアフターコンベンション会場として活用できます。
高松市水道資料館	大正時代に建設された旧御殿浄水場を改修した水道のミュージアム。平屋建ての小規模施設ながら国の登録有形文化財にもなっています。式典やエクスカージョン会場などに活用できます。

4 MICE用語集

・アフターコンベンション

会議日程終了後、又は会議時間終了後に引き続いて計画されている各種の行事。自由行動としての周辺地域のショッピング、娯楽などの活動も含めるのが一般的。

・インバウンド (Inbound)

訪日外国人旅行や旅行者のこと。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド (Outbound) 又は海外旅行という。

・エクスカージョン

会議公式プログラムの一部として、会議参加者及びその同伴者のために計画された、レクリエーションのための小旅行や遊覧。「ツアー」(Tour) ともいう。プログラムに関連した視察旅行も含む。

・グローバルMICE都市/グローバルMICE強化都市

MICE誘致競争を牽引することができる実力ある都市を育成することを目的にしたMICE誘致力向上のための施策。

○グローバルMICE都市/2013年6月選定(7自治体)

東京、横浜市、愛知県名古屋市、京都市、大阪府大阪市、神戸市、福岡市

○グローバルMICE強化都市/2015年6月選定(5自治体)

札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市

・国際会議協会 (ICCA : International Congress and Convention Association)

1964年設立の団体で、現在約60ヶ国、450団体の会員を擁する。会員は会議場、ビューロー、PCO、ホテル、旅行会社、高級会社、関連サービスの7種類に分類され、総会などを通じて相互の情報交換、産業発展のための諸活動を行っている。

・コンベンション・ビューロー (Convention Bureau)

コンベンション誘致等を目的として、地域のMICE関連事業者等とともに都市のマーケティングなどを担う非営利組織。観光部門を持つ組織の場合は、コンベンション・ビジターズ・ビューローという。本市においては、(公財)高松観光コンベンション・ビューローがその役割を担う。

・コンベンション法

国際会議等の誘致開催を促進する法律で、1994年に施行。正式名称は「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」。国際会議観光都市の認定には、以下の条件が必要とされている。

(第5条 抜粋)

- 一 国土交通省令で定める基準に適合する前条第2項第1号に規定する施設が整備されていること又は整備されることが確実であること。
- 二 国際観光ホテル整備法(昭和24年法律第279号)第3条の登録を受けたホテルその他の前条第2項第2号に規定する施設で国土交通省令で定める基準に適合するものが整備されていること又は整備されることが確実であること。

三 専ら国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務として国土交通省令で定めるものを実施する機関その他の国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務を適確に遂行するに足りる体制が整備されていること。

四 当該市町村の区域又はその近傍に国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力の増進に資する観光資源が存在すること。

・瀬戸・高松広域連携中枢都市圏

圏域全体の生活関係機能サービスの向上に加え、経済成長のけん引と高次都市機能の集積・強化により、圏域全体の魅力を高めることを目指すために構成された圏域。本市のほか、東かがわ市、さぬき市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、綾川町の3市5町で構成される。

・DMC (Destination Management Company)

保有する豊富な開催地に関する専門知識、情報、人脈、経営資源等を活用してMICEに関わるプログラム、ツアー、輸送・運送計画等を企画・提案し、サービスを提供する専門会社。

・DMO (Destination Management/Marketing Organization)

様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNS等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体。

観光庁が定義する日本版DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役。多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備える。

・PCO (Professional Congress Organize)

会議運営専門会社。あらゆる種類の集会、会議開催に関わる業務、又はこれに関連して派生する一切の運営行事に関わる業務を取り扱うための専門的能力を持った会社。

・プログラム

行事のスケジュール。各イベント開催の時間と場所の詳細が示される。

・ユニークベニュー

歴史的建造物、文化施設や公的空間等を活用して会議やレセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

< (公財) 高松観光コンベンション・ビューローの「コンベンション統計」 >

本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町で開催された（香川県内で開催され、補助金を交付したスポーツ大会、合宿含む）四国規模以上の大会について、主催者、宿泊施設、会議施設等からの情報をもとに作成。

<日本政府観光局（J N T O）基準>

【2007 年統計からの新基準】

*以下の①～④を全て満たす国際会議を、「国際会議」とします。

- ①主 催 者：「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」又は「国家機関・国内団体」（各々の定義が明確ではないため、「特定企業の利益を追求することを目的とした会議」の主催者を除く全てが対象となります。）
- ②参加者総数：50 名以上
- ③参 加 国：日本を含む 3 カ国以上
- ④開催期間：1 日以上

※参考

<国際会議協会（I C C A）統計の国際会議選定基準>

国際機関・国際団体（各国支部を含む）、または国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）が主催する会議で、以下の条件を満たしていること

- 1. 参加者総数が 50 名以上
- 2. 定期的に行われる（1 回だけ開催されたものは除外される）
- 3. 3 カ国以上での会議持ち回りがある（2 カ国間会議は除外される）